

植調協会だより

公益財団法人日本植物調節剤研究協会 創立50周年記念行事

当協会は昭和39年11月16日に設立され、本年で創立50周年を迎えることから、これを記念し、下記のとおり記念行事を実施いたします。

開催日時：平成26年12月12日（金）

開催場所：浅草ビューホテル

記念式典 16:00～17:00

〒111-8765 東京都台東区西浅草 3-17-1

祝賀会 17:00～19:00

TEL 03-3847-1111

「話のたねのテーブル」より

ナンジャモンジャノキ？

廣田伸七

「ナンジャモンジャノキ」という木をご存じだろうか。

5～6月頃の、満開のときには木全体が雪が積もったように真っ白に見えることで有名な木である。

この木は、長野県の本曾川流域と長崎県の対馬に自生するといわれる「モクセイ科」の「ヒトツバタゴ」という雌雄異株の落葉高木である。幹は大きいものでは高さ10m、幹の直径60cmにもなる高木で、満開時の姿が実に見事なことから、各地の植物園や公園などに植えられている。

俗名の「ナンジャモンジャノキ」の由来は、徳川の初期に水戸光圀公が千葉県利根川べりの神崎にある神崎明神の社殿を訪れたときに、植えられていたヒトツバタゴが見事に満開に

なっていた。あまりの見事さに光圀公が“これは何というもんじゃ？”と側近にたずねたが、誰もこの木の名を知るものがおらず、それから「なんじゃもんじゃの木」と呼ばれるようになった、と伝えられている。一般にこの地方では、他に見かけない珍しい木で、誰も名がわからないものを俗に「なんじゃもんじゃ」と呼んでおり、これがなんじゃもんじゃのはじまりと伝えられている（「原色・日本野外地植物図譜」奥山春季）。

東京では、文京区の小石川植物園、調布市の神代植物園に植えられている。今年はもう花が終わってしまったが、来年あたり満開の5～6月に訪れてみたいかがでしょうか。

（話のたねのテーブル No.191 より）



▲満開のヒトツバタゴ



▲開花初期のヒトツバタゴ

公益財団法人日本植物調節剤研究協会

東京都台東区台東1丁目26番6号

電話 (03) 3832-4188 (代)

FAX (03) 3833-1807

<http://www.japr.or.jp/>

編集人 日本植物調節剤研究協会 理事長 小川 奎

発行人 植調編集印刷事務所 元村 廣司

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会

発行人 植調編集印刷事務所

電話 (03) 3833-1821 (代)

FAX (03) 3833-1665

平成26年11月発行定価540円（本体500円＋消費税40円）

植調第48巻第8号

（送料280円）

印刷所 (株)ネットワン